様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年　６月　３日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2010 ～ 2012
課題番号：22531032
研究課題名（和文）　「優れた」小学校キャリア教育実践プログラムの開発研究
研究課題名（英文）　Development study of "exemplary" elementary school career educational practice programs
研究代表者
三村　隆男　（MIMURA　TAKAO）
早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授
研究者番号：10324021

研究成果の概要（和文）：「優れた」小学校キャリア教育プログラムについて三つの側面から研究し、成果を得た。一つは歴史的側面であり過去の実践と現代の実践とに通底する理念を析出することができた。二つ目は海外のキャリア教育実践との比較研究を行い、「優れた」に近づく方策を提示した。三つ目は実際の「優れた」実践に携わることにより、実践校の独自性を活かしたプログラム開発を行ったことである。
研究成果の概要（英文）：I studied on "exemplary" elementary school career education programs and got three results. One was the historic aspect. Through it the policies which past and modern practices share was revealed. Then through the comparative study with the overseas career educational practices and it showed means to approach "exemplary" practices in Japan. By being engaged in real practices I developed "exemplary" programs which utilized the characteristics of the school where the practice was implemented.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011 年度	900,000	270,000	1,170,000
2012 年度	800,000	240,000	1,040,000
総　計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：教育学・教科教育学
キーワード：キャリア教育、進路指導、職業指導、キャリアカウンセリング

１．研究開始当初の背景

（１）表出した課題とキャリア教育

小一プロブレム、中一ギャップ、高校中退など移行における学校教育の課題、ニート、フリーター現象における若者の職業意識や、派遣社員、契約社員など非正規雇用の増大による雇用形態の変化が抱える課題など、学び方、働き方などにおける多くの課題に我々は直面している。こうした変化の激しい社会が抱える課題への学校教育における対応方策として、「学校教育を構成していくための理念と方向性を示す」キャリア教育が登場する。

（２）キャリア教育の登場とその意義

キャリア教育は、1999 年の中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続改善について」にて初めて登場し、「キャリア教育（望ましい職業観・勤労観及び職業に対する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育）を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要がある」と定義され、職業観・勤労観という価値観を育成し、主体的に進路を選択する能力・態度の育成を小学校段階から始めることを求めた。

（３）学校教育法の改正

2007 年､学校教育法の一部が改正された。義務教育についてはその目標の中に「職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養う」(第 21 条の 10) を示した。義務教育学校である小学校に対し「将来の進路を選択する能力を養う」を求めた画期的なできごとで、中学校、高校につながる「生き方」の指導体系を求めたことになる。

（４）先行研究からの継続

小・中・高 12 年間のキャリア教育の基盤をなす小学校に於けるキャリア教育については、科学研究費（基盤研究（C））として、平成 18 年～20 年の３年間「小学校におけるキャリア教育のプログラム開発及び評価研究」の成果をもとに「優れた」小学校キャリア教育について研究を開始することとなった。

２．研究の目的

どの小学校でも「優れた」キャリア教育実践が可能になることが本研究の目的である。そのため、小学校キャリア教育の「優れた」実践とは何か、その実践を拡大する方法とは、を研究の主な対象とした。以下の３つの視点で研究を行なった。

ひとつは、歴史的側面からである。キャリア教育を「生き方の教育」として広範囲に捉え、過去の生活綴方教育実践のひとつである北方教育に焦点を当て研究する。同教育運動は、「生き方の教育」として生活綴方という教育手法を用い、最終的に職業指導へその運動の中心を移行する経緯をたどり、その運動理念や手法がキャリア教育と共通する部分が多く認められるからである。

二つ目は、海外における調査研究である。わが国のキャリア教育の系譜を辿るとその影響はアメリカ合衆国のキャリア教育から受けている。小学校のキャリア教育が順調に拡大しているとは言えないわが国において、米国をはじめ海外の実践を研究することは、現状への改善の糸口を見出す意義のある方法だからである。

三つ目は、小学校で行われているキャリア教育実践に直接携わり、「優れた」実践に接近するためのわが国小学校キャリア教育実践の課題を明確にする。多くの実践から「優れた」キャリア教育実践の共通項を抽出し、最終的には、一般の小学校がそれに習い「優れた」実践が可能になるプログラムの開発方法を提示する。

上記３つの視点での研究に並行し、文部科学省をはじめとするキャリア教育施策の整理を進めていく。

３．研究の方法

（１）歴史的考察において

キャリア教育を生き方の教育として捉え北方教育を考察するための前提として以下の４つの視点を整理して考察を行う。

①進路指導とキャリア教育を融合

職業指導、進路指導そしてキャリア教育との系譜を成立させるため、文部科学省の「進路指導の取組は、キャリア教育の中核をなすものである」との指摘を受け、進路指導とキャリア教育の理論的融合を試み、さらに、北方教育が展開した職業指導及び北方教育の運動理念や手法を検討する視点を創出する。

②キャリア発達課題

キャリア教育ではキャリア発達がその促進の指標として設定され、小学校、中学校、高校のそれぞれの学校段階には発達課題が示されている。それらの発達課題を達成するために求められる能力が、2002 年に「キャリア発達にかかわる諸能力」として示され、2011 年には、「基礎的・汎用的能力」として組み替えられた。

両能力については、その関係も示されており、時代により求められる能力には若干の変化はあるものの基本的には「生き方の教育」で求められる能力を根源的、原初的に捉え、北方教育実践を考察する一視点として扱う。

③啓発的経験としての職場体験

2005 年、文部科学省は、厚生労働省、経済産業省等の協力を得て始めた５日間以上の職場体験を行う学習活動である「キャリア・スタート・ウィーク」は全国に拡大し、2011 年には、公立中学校における職場体験の実施率は 96.9%となり、「５日以上」の実施率が 17.2%となった。一方、職場体験は学校で職業指導が開始された 1927 年から盛んに小学校でおこなわれ、当時は職業実習と呼ばれていた。卒業者の多くが就職した小学校において、主に夏季休業を利用して実施されていた。現在の職場体験と単純な比較はできないが、進路指導の視点から、職場体験がもつ自己理解を促進する時代を超えた共通の機能を用い、北方教育の運動理念や手法を考察する。

④教育理念の視点

既に示した 1999 年のキャリア教育の定義及び 2011 年に中教審答申で新たに示された定義「一人一人の社会的･職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成することを通して、キャリア発達を促す教育」とを総合的に解釈し、「生き方の教育」という概念規定を析出すると次のようになる。「主体的に生き方を選択できる（社会的・職業的自立）能力や態度を身に付ける教育を展開する」である。ここに、職業指導、進路指導、キャリア教育を包括する「いかに生きるべきか」という「生き方」の問題が収斂される。

こうした系譜を遡ることで、生活綴方を教

育方法とした北方教育と、個性尊重を旨としてとして開始された職業指導とが、その邂逅によりわが国の「生き方の教育」の生成にどのような意義ある運動理念や手法を展開することになったかを考察する。

（２）海外における調査研究

2007 年度までの基盤研究（C）「小学校キャリア教育のプログラム開発及び評価研究」にて調査訪問したカリフォルニア州、ウスコンシン州、さらにそれ以前に訪問したミズーリ州、イリノイ州に加え、アメリカ合衆国のいくつかの州、さらには、アジアにおいて「優れた」キャリア教育を実践している小学校を訪問する予定である。訪問先では、キャリア教育のプログラム、ツール、人的資源の活用方法、評価方法などの資料を収集する。特に、わが国に存在しないキャリア・カウンセラーのキャリア教育プログラム作りを研究し、その代替となるべき小学校の人的資源の可能性をさぐる。さらに、国内外のキャリア教育研究機関を紹介と連携し小学校の発達段階にふさわしいキャリア教育のあり方を検討する。その際、元カリフォルニア州スクールカウンセラー協会会長、兵庫教育大学特任教授ダリル・ヤギ氏などの協力を得て訪問調査を行う。

（３）キャリア教育実践への関与、及び事例収集

地域及び学校で組織的に行われている小学校キャリア教育の実践に直接関与し、実践の主体となっている教師へのかかわりを通し、プログラム開発にいたる経過、実践のオリジナリティ、組織的系統的な展開における工夫、評価の在り方などを整理し、「優れた」実践に迫る。さらに、発達段階にあわせたプログラムを収集し、小学校の、教科、道徳、学級活動、総合的な学習の時間など様々な領域での実践の可能性を高めていく。調査研究で収集した中の「優れた」実践事例は、日本進路指導協会発行『進路指導』誌に逐次掲載していく。

４．研究成果

（１）歴史研究における成果

①キャリア教育に於ける視点と北方教育

・進路指導と６活動による考察

進路指導の６活動を「①自己情報の理解」「②進路情報の理解」「③啓発的経験」「④進路相談」「⑤就職や進学への指導・援助」「⑥追指導」と略記し、構造モデルを作成した。それらを、北方教育の実践を解釈する際に活用した。その結果、北方教育の運動メカニズムが説明される部分が多くみられた。進路指導の６活動の視点は、職業指導との邂逅による北方教育の「生き方の教育」としての発展過程を、キャリア教育、進路指導から考察することを可能にした。

・リアリズム綴方教育論における自己理解

『くさかご』２号の総評に書いた成田忠久の「周囲をよく見て考えることで、りっぱな綴方が生まれる」といった綴方に対する高次な概念はその後の北方教育の運動原理となる。これは、自己理解の重要性を言外に示しており、こうした原理は職業指導のもつ理念と共同歩調を取る可能性を示す。

さらに、佐々木昂は、「リアリズム綴方教育論」で「我（自己）と存在（自己を取り巻く社会）とを結び付ける表白はその初期の段階で表れるものが個のリアリテとしての純粋な自己表現である。」とし、綴方をとおし自己理解を促進することで、個のリアリテとしてのキャリア形成が促進されると読み取れる考え方を示した。

・啓発的経験としての職場実習

秋田市高等小学校の校報『夕映』第１号（1937 年発行）の「本校の職業指導の実際」の「四、職業実習」にある「職業に対する知識、理解の啓培」及び「実務によって得られる職業人としての精神陶冶」の記述は、啓発的経験である職場実習による自己理解を通した勤労観・職業観の育成として読み取ることが可能である。

・書くことによるガイダンスの機能

佐々木昂の「指導の特殊性」には、書かれたものを通し先生に打ち明け相談を求める場合のプライバシー・ポリシーに触れている。その後、佐藤サキの『職業』による綴方を通した「子どもの諸問題」の開示があり、「作品研究会」に会する教師が綴方をとおしたケーススタディにより支援にのりだすのである。ここに、進路指導の６活動の「④進路相談」の展開が認められる。「書くこと」による自己理解の実現と、書かれたものによるガイダンスの成立は、進路指導、キャリア教育の共通性を指し示す重要な出来事と言える。

・手紙を活用した追指導

職場から秋田へ「職場生活を郷土に知らせる手紙文」を送る取り組みは「⑥追指導」の一つであり、この資料は、同じ進路を辿る後輩にはモデリングの作用があり、一方、郷里におくる作文を書く卒業者にとっては振り返りを中心とした自己理解の機能を有する。大森機械工業徒弟委員会における職業訓練施設の設置も新たな進路への先での適応を促進すると考えられ、「⑤移行支援」や「⑥追指導」の機能を有するといえる。

②キャリア発達の視点

発達課題に応じた授業構成は北方教育同人の系統案によって確認された。特に佐藤孝（幸）之助『綴方の勉強姿勢とリアリズム』では尋常科１年から、高等科２年までの８年間を、１０の生活研究に分け、題材を設定し

ていた。それぞれの課題に「生活探求のために」の項目を設定し、そこには社会的・職業的自立を促す内容が記述されていた。一方、加藤周四郎の『綴方系統案』からは、課題「家と私」の下で「家の人々の仕事の役割」「どんな生活態度を持つか」をテーマに職業指導部との連携も示した展開を示し、綴方の授業を通し生き方の選択のひとつである職業選択を視野に入れていた。佐々木昂は「リアリズム綴方教育論（一）」で、綴方という表現活動を通し、個を取り巻く社会の「生き方」の情報を、客観性、価値性、普遍性といった発達論的な方向に指導することを主張した。実践を理論化するなか、発達的視点で子どもの成長をとらえ、「書くこと」通しガイダンスやカウンセリングの機能を活かした子どもの自己理解や教師の子ども理解を進めていく北方教育の姿勢は、こうした系統案からも確認できる。

③職場体験（実習）から勤労観、職業観の育成

職場体験は進路指導の６活動の「③啓発的経験」に位置付け、自己理解を促進し、勤労観、職業観の育成する機能について考察した。

加藤周四郎の秋田市立高等小学校の職業指導体系の中で組織的、系統的に職場体験が行われている様子は、北方教育下で実施された職場体験の特徴がよく示されている。加藤は職場指導について「職業に対する知識、理解の啓培、他面には実務によつて得られる職業人としての精神陶冶に重点を置き又幾分でも選職上の便宜なるものと確信する」の見解を示し、職業についての知識・理解の促進の部分と体験から得られる職業人としての職業意識の育成の二つの機能を挙げている。この姿勢は、「③啓発的経験」と通底する機能を目指すとも捉えることができる。

④教育理念の視点

北方教育の教育理念が職業指導と邂逅することで、北方教育の方向性や質に影響を受けたとの視点で考察を進めた。滑川が指摘するように「『生活綴方』は子どもたちに現実生活を文字表現させ、そのことによって生活をみつめ、生活認識をふかめ、その生活を前進させようとする」もので、北方教育では、子どもの綴方を協議する「作品研究会」が理念構築の場となった。そこに持ち込まれた作品「職業」は同人たちを動かし、「真の作品処理は作者ーーーサキに『生き方』を教えることでなければならなかったのだ。」との結論に至ることになる。さらに、作品研究会の理念構築は、「リアリズム綴方教育論」として『北方教育』誌上で論を展開することになる。「作品処理は生活処理」が北方教育の運動理念の中心となる。

職業指導の理念としては、訓令 20 号の「職業ニ関スル理解ヲ得シメ勤労ヲ重ムズル習性ヲ養ヒ始メテ教育ノ本旨ヲ達成スル」が中核となっている。加藤の秋田高等小学校における職業指導の実践、その後の加藤や佐々木による秋田県職業行政への出向、職業指導研究会の企画・組織等を総合的に考えることで、北方教育の理念と職業指導本来の理念とが融合し、発展的な展開が北方教育で実現されたと考えられる。当時、多くの職業指導実は本来の在り方から外れ就業そのものを扱い方法論も個性調査や職業実習が中心であった。それに対し、北方教育では、教育方法としての生活綴方がその理念と本来の職業指導の理念とが融合させ「生き方の教育」を成立させるのである。

「主体的に生き方を選択できる（社会的・職業的自立）能力や態度を身に付ける教育を展開する」とするキャリア教育の課題に照らし、理念を支える活動として①～③を検討することで、北方教育の教育活動は、職業指導の理念を取り入れることで、生活綴方としては独自の発展を遂げ、「生き方の教育」の創出を実現させたと位置付けられるのである。ここに、「優れた」キャリア教育実践の原点を探ることができる。

（２）海外における調査研究

2010（平成 22）年度は、韓国で行われた国際学会で、わが国のキャリア教育の「優れた」実践を紹介し、諸外国の研究者や実践者の批判を仰いだ。また、米国ケンタッキー州、カリフォルニア州のキャリア教育について訪問調査を実施した。現在米国で拡大するキャリア・テクニカル教育の実態を視察調査し、特に小学校の「優れた」キャリア教育プログラム「Engineering is Elementary」について授業を見学するなど研究調査を進めた。米国の調査研究は、キャリア教育の組織、キャリア発達促進のための資源、職業とのつながり、学力向上への取り組みの４つの観点で行なわれた。諸外国における知見は、「優れた」の意義を多角的に捉える上で非常に有効であった。

2011（平成 23）年度は、アジアのキャリア教育視察の日程調整がつかず、米国視察に切り替えた。米国の視察では、キャリア教育を実践するための教師用資料、教師の能力開発を支えるシステムや教員養成機関の視察を経て多くの知見を得ることができ、研究に新たな視点を加えることができた。

2012（平成 24）年度は、イギリスのロンドン大学及び周辺の学校訪問を通し、教員養成における教師キャリアの形成について研究を深めた。キャリア教育を推進する教師にとって、自らのキャリア形成を自覚することにより、教室でのキャリア教育実践が充実していくといった理由からの訪問である。一方、イギリスの学校を訪問し、キャリア教育につ

ながるシチズンシップ教育やＷＲＬ(work-related learning)の実践について理解を深めた。

以上の研究実績に加え、優れたキャリア教育実践を可能にするため、教師の専門性開発やキャリア教育研修会のプログラム開発に着手することで、「優れた」を実践する教師のキャリア形成を新たな研究テーマに位置付ける契機を得た。

（３）キャリア教育実践への関与、及び事例収集

2010（平成 22）年度は、教育実践事例収集を中心に研究を実施した。「優れた」小学校キャリア教育プログラムの「優れた」を明確にするため、全国４つの小学校の実践事例を報告・分析するとともに、都内の５つの小学校における「優れた」キャリア教育実践の研究に携った。そのうち４校は小中連携においてキャリア教育の実践に取り組んでいた。こうした実践研究では、発達段階に即したプログラム開発において能力や態度の育成が実践にどのように反映しているかに焦点をあて実践事例の整理にあたった。

「優れた」実践とは、学校の教育課題と直結した実践に多く見られることから、教育課題を明確にしながら「優れた」キャリア教育を推進している実践者やそうした活動を支援するＮＰＯや教育コーディネーターを招き、３回のシンポジウムを開催し、「優れた」キャリア教育について、その要件や周囲からの支援についての多くの見解を得た。

2011（平成 23）年度は、「優れた」キャリア教育実践を可能にする教材の収集では国内外の実践を調査し、今年度は４つの優れた実践（山形県、福岡県、東京都２つ）を冊子『進路指導』を通して紹介した。また、荒川地区の二小学校、一中学校の研究を通し、小中連携の「優れた」キャリア教育の実践として、中一ギャップを克服するための移行支援の授業開発を行い、一定の成果を得た。

2012（平成 24）年度は、「優れた」キャリア教育実践を可能にする教材の収集では国内外の実践を調査し、今年度は４つの優れた実践（栃木県、東京都、ドイツ・フランクフルト市、沖縄県）を冊子『進路指導』を通して紹介した。特に、荒川地区の二小学校、一中学校の研究を通し、小中連携の「優れた」キャリア教育の実践として、中一ギャップを克服するための移行支援の授業開発を行い、一定の成果を得た。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 22 件）

①三村隆男、米国カリフォルニア州教育視察Ⅲ　教員養成と教師キャリアの形成、進路指導、日本進路指導協会、86(1)、2013、37-40.

② Takao Mimura, Younnjung Gong, Chi-Ping Deng, Darryl Takizo Yagi, Maehyang Hwang, and Donghyuck Lee Career Counseling in Asian Countries: Historical Development, Current Status, Challenges and Prospects, Journal of Asia Pacific Counseling, Volume 3, Number 1, The Korean Counseling Association, 2013, 9-33. （査読付）

③三村隆男、棚原美由紀、沖縄県宮古島市立狩俣小学校、未来を生き抜く自立型人間の育成～ジョブシャドウイングを通して～、進路指導、日本進路指導協会、86(1)、2013、41-45. 3 月

④三村隆男、細川貴文、天野幸輔、フランクフルト日本人国際学校、自分に気づき、未来を築くキャリア教育 - フランクフルトにおけるキャリア発達の支援－、進路指導、日本進路指導協会、85(4)、2012、46-50.

⑤三村隆男、「生き方の教育」としての進路指導、キャリア教育、平成 24 年 12 月、信濃教育第 1523 号（10～22 頁）

⑥三村隆男、梶田久仁子、松尾祐子、東京都荒川区立第三中学校、東京都荒川区立汐入小学校、、、新たな環境に円滑に移行できる力の育成～相手の気持ちを理解し、自分の思いを伝える～、進路指導、日本進路指導協会、85(3)、2012、39-43.

⑦三村隆男、菊地明男、栃木県宇都宮市立清原東小学校、義務教育 9 年間の系統性を図ったキャリア教育の実践～ふれあいを通した自己の生き方の追求～、進路指導、日本進路指導協会、85(2)、2012、39-43.

⑧三村隆男、小学校五年生、六年生におけるキャリア教育　平成 24 年 6 月児童心理 No. 951、2012、48-54.

⑨三村隆男、白石信子、かかわりのなかで自立して生きる児童の育成～キャリア教育根岸プランの創造～、進路指導、日本進路指導協会、85(1)、2012、39-43.

⑩三村隆男、山口猛虎、自分なりのあり方・生き方を高めかかわる力を育てる学習活動の実践語活動の充実、進路指導、84(4)、日本進路指導協会、2011、42-45.

⑪三村隆男、小西修一、自己肯定感の高い児童生徒を育てる小中一貫教育、進路指導、84(3)、日本進路指導協会、2011、39-43.

⑫三村隆男、社会的・職業的自立を促進する特別活動－特別活動とキャリア教育との関連から－、日本特別活動学会紀要第 20 号、2012、13-17.

⑬三村隆男、白田克幸、小学校キャリア教育カリキュラム開発、進路指導、84(2)、日本進路指導協会、2011、38-42.

⑭三村隆男、新たな可能性を求めて、平成 22 年度教育課題研修会海外派遣プログラム

報告書「キャリア教育」アメリカ（Ｆ－１団)、教員研修センター、2011、78-83.
⑮三村隆男、小原弘樹、キャリア教育と人権教育の融合、進路指導、日本進路指導協会、84(1)、2011、39-43.
⑯三村隆男、わが国大正期の学校改革における職業指導の役割 - 大阪市本田尋常小学校長三橋節の思想及び教育実践を通して - 、早稲田大学大学院教職研究科紀要、第３巻、早稲田大学大学院教職研究科、2011、47-72.
⑰三村隆男、百年先を見越したさいたま市の教育を！、教育さいたま、№24、さいたま市教育委員会、2010、4-7.
⑱三村隆男、こんな厳しい時代だからこそ、専門的・職業的なアプローチも目指して生きたい、キャリアガイダンス、№35、リクルート、2010、29-30.
⑲三村隆男、初等中等教育・大学・社会の接続に向け大学が果たすべき役割、Between No.235、進研アド、2010、14-15.
⑳三村隆男、深谷典子、交流活動をつないで育むキャリア教育の実践、進路指導、83(4)、日本進路指導協会、2010、46-50.
㉑三村隆男、松浦ゆう子、教科との関連において進めるキャリア教育の実践、進路指導、83(3)、日本進路指導協会、2010、39-43.
㉒三村隆男、阿部誠、人とふれ合う体験を重視したキャリア教育の実践～総合的な学習の時間と国語科をとおして～、進路指導、83(2)、日本進路指導協会、2010、37-41.

〔学会発表〕(計５件)
①三村隆男、吉岡芽薫美「キャリア教育における外部人材活用の取り組みについて－中学校におけるキャリア教育実践講習の実施より－」日本キャリア教育学会第 34 回研究大会、2012 年 10 月 28 日、滋賀大学.
②三村隆男「大正期の小学校における職業指導の始まりと学校改革－三橋節の本田尋常小学校における学校経営を事例に－」日本キャリア教育学会第 33 回研究大会、2011 年 11 月 13 日、日本体育大学.
③三村隆男「キャリア教育と特別活動～教育基本法・学習指導要領などの改正をもとに～」日本特別活動学会第 20 回大会、2011 年 8 月 21 日、宇都宮大学.
④三村隆男口頭発表「わが国における職業的価値観生成に関する一考察」日本キャリア教育学会第 32 回研究大会、2010 年 11 月 14 日、新潟大学.
⑤Takao Mimura, Career Education in Japan, International Conference on ‘Sharing Ideas and Best Practice in Career Education with Integrative Approach’ Korean Society of Career Education, May, 19, 2010, Gyeongju, Korea.

〔図書〕(計３件)
①三村隆男、寺田盛紀、沼口博、大淀昇一、三宅章介他 64 名、大学教育出版、産業教育学・職業教育学ハンドブック、2012、総頁 309, pp. 171-175, pp.186-190, 日本産業教育学会編纂.
②三村隆男、学文社、書くことによる生き方の教育の創造～北方教育の進路指導、キャリア教育からの考察～(全 173 頁)学文社、2013.
③三村隆男、教師というキャリア(全 200 頁)雇用問題研究会,2013.

６．研究組織
(1)研究代表者
三村隆男　(MIMURA TAKAO)
早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授
研究者番号：10324021